



【トリチウムの脅威、原発の新たな危険性を確認！

5月13日京都測定所・開設6周年のつどいを開催しました】

京都・市民放射能測定所を支えてくださっている皆様へ

5月13日の当測定所開設6周年のつどいは、50数名の方にご参加いただき大成功でした。京都新聞の市内版にも記事が掲載されました。ご参加・ご協力いただいた皆様に、心から感謝いたします。

今回は京都の北部の大飯・高浜原発が再稼働するという情勢の中での開催でした。森永徹（もりながとおる：元純真短期大学・健康科学 医学博士）さんには原発と再処理工場から放出される「トリチウム」によって、白血病増加などの健康被害が発生していることを講演していただきました。市川章人（いちかわあきと：京都自治体問題研究所）さんからは、日本海で海底地すべり津波が発生する危険性が明らかになるなど原発推進勢力の矛盾がますます深まり、私たちの方に展望があることを示していただきました。

会員総会では、当測定所が築いてきた研究者の方たちとのつながりを生かし、最先端の研究成果を学ぶ学習会の継続開催を行うことを確認しました。魅力のある測定所主催の企画をつくり、会員・一般の方が足を運んでもらえる測定所にしていき、会員拡大と測定依頼の拡大をめざし、財政基盤を建て直していきます。そして新たな方針として、郵送による測定検体の受付を6月からスタートすることを決めました。

参加された方からは「講演がすばらしかった」「測定所は大切な存在」など、あたたかい感想が多く寄せられ、運営スタッフ一同、大きな励みになりました。

ぜひ、これからも京都・市民放射能測定所をよろしく願いいたします。

2018年6月23日

京都・市民放射能測定所 事務局長 佐藤和利

会報第12号の内容

【2面】開設6周年つどい 森永さん（トリチウム）、市川さん（原発の新たな危険）の講演内容紹介

【3面】気になる測定結果 保育園の給食食材「干し椎茸」のお話 今年是不検出に。

【4面】7月15日（日）勉強会（復興庁パンフ「放射線のホント」批判）ご案内、測定所からのお願い